

会議録

会議名 (審議会等名)	相模原市南区区民会議		
事務局 (担当課)	南区役所区政策課 電話042-749-2134 (直通)		
開催日時	令和8年2月18日(水) 10時00分から12時30分まで		
開催場所	南区合同庁舎3階 講堂		
出席者	委員	17人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	7人(南区長、他6人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 区長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 特別市について(広域行政課)</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) アイディアコンペの開催報告について</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 無作為抽出型区民討議会について</p> <p style="margin-left: 20px;">(4) 南区基本計画に示す取組目標の進捗について</p> <p style="margin-left: 40px;">ア 取組目標VI 区民がいきいきと活躍する協働のまちをつくれます</p> <p style="margin-left: 40px;">イ 南区基本計画の総評について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>		

審議経過

主な内容は、次のとおり。(○は委員、●は事務局、■は広域行政課の発言)

1 開会

2 区長挨拶

加藤区長から挨拶を行った。

3 議題

(1) 特別市について(広域行政課)

資料に基づき広域行政課から説明を行った。

- 区民会議として賛成・反対を議論すべきなのか。立ち位置を確認したい。(井坂会長)
- 自由に発言をいただき、広域行政課に持ち帰り今後の参考とさせていただきたい。
- スマートシティ、行政の簡素化は、人口減少を見据えてのことだと思うが、高齢者ケア、老朽化するインフラの対応等、行政サービスは増え続けている。県の仕事を特別市が行うことで、さらに仕事が増えることになるが職員の数は足りるのか。大都市とは何をイメージしているのか。相模原市は大都市か。任された市は大変だと思う。住民サービスを受ける立場としては十分なサービスが受けられるのか不安になる。(伊藤委員)
- すべての政令指定都市が構想に入っていない。入らなかった理由はあるのか。(渋谷委員)
- 参加は13都市、不参加は7都市(札幌、新潟、京都、大阪、堺、福岡、北九州)。他の指定都市については、把握していないが、大阪市や堺市は大阪都構想への動きなどもあることから参加されていないのではないかと。指定都市市長会(20市)としては、特別市を制度化することに対しては、賛成している。
- 神奈川県相模原市ではなくなるのか。(井坂会長)
- 特別市に移行した際には、神奈川県の外域となるため、神奈川県相模原市という名称から神奈川の部分がなくなる。現時点で相模原市は特別市を目指していないが、制度化には賛成の立場である。
- 横浜市、川崎市、相模原市が神奈川県から外れた場合、神奈川の財源の減収が見込まれる。その他の市町村の立場からすると切り捨てられたイメージを持たれるのではないかと。構想に対する他市町村からの反発はないのか。(井坂会長)
- 財源は事務量に応じて調整、決定されるものである。横浜市や川崎市が特別市となる場合においても十分な調整がなされるものと認識している。
- 相模原市が導入するかはこれからの検討になると思うが、導入することで資料集5ページの現状認識の課題が解決されていくイメージで合っているか。(松本委員)
- 現状認識の「進み続ける人口減少」、「東京都への一極集中の加速」、「停滞する経済状況」

については、制度化することで多極分散型の社会が形成されるので3つの課題が解決されると考えている。

- どのような手順を踏んで解決されていくのかを知りたい。(松本委員)
- 「進み続ける人口減少」について、東京都と大都市を比較しても東京都に一極集中し、大都市は減少している。それを解決していくには、特別市が県の区域外となって圏域の中心となり、周辺市町村との水平連携や水平補完も視野に入れながら連携していくことで業務の効率化などを行い、圏域を強くすることで東京都への一極集中の加速を抑えていくものとなる。
- 国・県マターでやっている事務の財源を下すことにより独自の政策を作って住民を増やしていき税収を得ていくことになるということか。(松本委員)
- 業務の迅速化、市の意向を反映した政策にすることができるようになる。
- 政令指定都市移行により神奈川県から権限移譲された事務は県の事務の何パーセント位、市でできているのか。(伊藤委員)
- 数値はこの場でお答えできないが、パスポート業務等、相当数の業務は増えたと認識している。県内市町村からは、神奈川県から移譲された事務を返還する動きもある。
- 市・県民税を納めているが、県民税は県に納税されていたものが市に納税されることにより財源的にはそこまで苦しくないのではないか。警察は神奈川県の管轄だが、相模原市の警察の位置付けになるのか。(田村副会長)
- 警察は、特別市に設置するのが基本になり、相模原市警察になる。現状、県を跨いだ警察の連携はすでに行われており、県との共同設置等の可能性もある。
- 東京都は区長公選、区議会がある。制度導入後の相模原市各区の区長は公選ではなく、行政職で市議会の承認を得ることになるのか。(井坂会長)
- 指定都市市長会においては、そうした方向性で議論されている。
- 財源の問題、東京一極集中から大都市一極集中になり神奈川県の中西部が切り捨てられないかという議論も出てくると思う。急がずに議論をしていただきたい。(井坂会長)

(2) アイディアコンペの開催報告について
資料に基づき事務局から報告を行った。

- 提案者に自由に質問をすることができた。作品へのこだわりがあり、考えられたもので面白かった。是非、活用していただきたい。また、来場者に付箋を配り、ブルーと聞いて連想するものを記入していただき、孔雀の形になるように貼り付けた。楽しいイベントだった。(井坂会長)

(3) 無作為抽出型区民討議会について

資料に基づき事務局から説明を行った。

- 参加者への通知、アンケートについて、前回と比較して本討議会の目的、討議する内容を区民が参加しやすくなるように南区基本計画、内容をわかりやすく伝えようとした資料になっていると思う。参加予定人数も多く、8つのグループで議論も盛り上がるのではないかと。アンケートも目につきやすいように工夫されている。(松本委員)
- 参加者の年代、地域別の人数はわかるか。(井坂会長)
- 現在、集計のため数字で示すことはできないが若い世代が多い。外国人の申込みもある。幅広い意見を聞くことができると思う。
- 本討議会は、区民会議としての位置付けになるので、都合が合えばご参加いただきたい。(井坂会長)

(4) 南区基本計画に示す取組目標の進捗について

ア 取組目標Ⅵ 区民がいきいきと活躍する協働のまちをつくります

イ 南区基本計画の総評について

資料に基づき南区基本計画の取組目標Ⅵ「区民がいきいきと活躍する協働のまちをつくります」の概要について事務局から説明を行った。

- 高齢化の中で若者がどのように参加していくかが課題だと思うが、世代間の交流を増やすための若者参加の会議・イベントなど一緒に活動できる場を設け、若者、高齢者間での意見交換が活動を通して行えると良いと思う。(西生委員)
- どのような場が考えられるか。(井坂会長)
- 防災関係は若者も参加するが、シニア世代が中心になっている。イベントやお祭りで参加者に役割を与えて各世代が主体グループを作っていくことで意見が言いやすくなると思う。(西生委員)
- 若者の参画において、まちづくりは大きいもの、手の届かないところにあるように見えてしまうことが課題としてあるが、実際には普段行っている活動、学校で学んでいることがまちづくりに活かされている。それを実感してもらえる手段として自治会加入やイベントがある。それが取組目標に貢献できるポイントだと思う。また、この場を借りて協力をお願いしたい。(松本委員)
- 見える化することで自分がやっていることが具体的に繋がっている実感を与える。今の学生は結論を早く欲しがり結論がないと不安になる。そうではなく、世の中には見えないところに面白いことがたくさんある。(井坂委員)
- 地域のイベントの参加や手伝いの手段がわからない。参加者募集の発信方法や手伝った時のご褒美として地域で使えるものを用意する等の工夫をすると良いと思う。(小池委員)
- 学生は、声をかけてもらえると嬉しいという受け身になりがち。上手く手を差し伸べると活動できる。(井坂会長)
- 取組目標Ⅲ「誰もが安心して暮らせるまちをつくります」に防災があるが、「第1回防災に関する共同会議」について紹介したい。相模原・町田教育連携プラットフォームにおいて、地域で何か協働してできないかというところから始まり議論を重ね、今回実現の運びとなった。第1回は3月18日に青山学院大学相模原キャンパスで開催するので是非、ご参加いただきたい。取組目標Ⅲに防災意識の向上、空き家問題があるが、JKK東京と連携して町田の木曾団地に学生が入居し、自治会活動に参加している。相模原市

でも市の協力を得ながら活動ができればより地域が活性化すると思う。大学がたくさんあるのでその力をどう活かしていくかを考えている。(朝日田委員)

- 若者のまちづくり、地域活動への参画において、所属している団体（チームユニバース運営委員会）では、活動者と利用者が、年齢や活動者と利用者の立場に関係なく、自分たちにできること、地域を良くしていくことを考えている。活動する上で課題になるのが、学生の活動に対して理解を示す大人が少ないことである。学生たちを信じて支援して欲しい。(遠木委員)
- 若者のやる気の芽を摘んでしまうことに対して、大人の立場として反省しなければならない。(井坂会長)
- 区の魅力づくりと情報発信について、文化を通して魅力ある相模原市を発信していきたい。南区に魅力があり、引っ越して住み続けることが人口減少、一極集中、停滞する経済状況を打破することになる。文化の面では、一流で質の高いものと気軽に参加できるものに取り組んでいきたい。(後藤委員)
- 良い文化の催し物をするにより、住む前に人が来ていいまちだと思ってもらうことが大切になる。相模原市民文化財団としてさらにPRをして欲しい。(井坂会長)
- 相模原商工会議所の内部団体として青年部（45歳まで）では、相模原総合補給廠で毎年11月に開催される「さがみはらフェスタ」で活動している。子供は大きいお祭りよりも近くの公園のお祭りに学校の友達と一緒にいくこと、身近なところで手伝いをするのが楽しいと感じている。親としては、自治会はハードルが高いが参加の努力もしつつ、ハードルが低くもう少し気軽に参加できるものがあれば良いと思う。(大西委員)
- お祭りの規模が大きくなる程、誰かがやってくれるイベントになってしまう。(井坂会長)
- 取組目標Ⅱ「いつまでも健康でお互いが支え合うまちをつくります」について、高齢者は、特に一人暮らしの方は「社会的に孤立」という言葉があるが、外に出なくなり、あらゆることに関心がなくなってしまう。医療にかかるのも遅くなり、孤独死にも繋がる。孤立しないように支えていきたい。若者について、冬季オリンピックでは怪我をしても立ち向かう負けない若者がたくさんいた。若者をこれからもっと育てていき社会に出していくかをまちの中で考えていきたい。(渋谷委員)
- 引きこもり高齢者が問題になっているが、孤立しないように上手く関わると良い。(井坂会長)
- 取組目標Ⅵの現状と課題に「多くの地域活動の担い手は高齢者が中心であり」について、新磯では高齢者が一人で複数の役を担い負担になっている。また、高齢者は自治会の回覧板が負担である、役員ができない等の理由での退会希望が多い。そのような状況を改善していきたい。新磯は大風のまちだが、大風を作る人、揚げる人も高齢化している。若者に協力してもらえれば大風ももっと盛り上がると思う(藤野委員)
- まちづくりについて、もえぎ台小学校跡地の活用と図書館相武台分館の在り方について検討を重ねてきた。この2件だけでも市長、教育長へ要望書を提出するのに2年間を要した。他にも空き家問題、少子高齢化、児童の居場所、安全安心、担い手不足など課題が多すぎる。自治会について、未加入者に加入促進をしても成果が低いので現状維持することに注力している。また、自治会イコール負担が多いイメージを何とか払拭したいが難しい。逆の考え方としてお祭り等に来て楽しんでもらうことが将来、親の立場になったときに自治会の担い手になることに繋がっていくと思う。今いる人が楽しんで、それを見た人が加入すれば楽しいかもと思ってもらえることを期待している。(浅田委員)
- 自治会については、区民会議でも毎回話題になるが、繰り返し聞くことが大切。それを積み重ねることにより大切なものが見えてくる。(井坂会長)
- 2月9日に「相模台地区まちづくりを考える懇談会」が開催された。二つのテーマにつ

いて議論した。一つ目は独居などの高齢者等のサポートについて。認知症、後見人制度等に関して、中心的になるのは地域包括支援センターになり、さまざまな取組をしているが、行政との狭間で上手くいかないところがあるとの意見があった。二つ目は外国人居住者との共生について。相模台地区の約500世帯の団地では、住民の1/3を外国人が占めている。生活習慣、宗教文化が日本人と異なることによる問題が起きている。また、外国人を含めた働き方改革も市で重点的に進めていく必要があると思う。自治会では、会員の減少、高齢化が進んでいる。役員が負担になることにより高齢者の退会が多い。広い空き家の跡地に新しい住宅が複数棟建てられ、世帯人口は増加しているが、自治会加入に繋がっていない。若い人が参加して作っていくイベント、自治会の在り方について考えていきたい。いろいろな面で若者との協働、外国人との共生が今後の大きな課題となっていく。(中村明委員)

- 新磯の自治会加入率が50%を下回ってしまった。今年度からチャットGTPのAIを活用して若者が見てくれるように自治会活動をアピールしていくことを目標としている。新磯公民館に所属している団体は114団体あるが、これまで団体を束ねる場所がなかった。そのため、各団体をまとめるボランティアセンターを設立し、個々の団体が繋がる関係性を築いていきたい。観光について、新磯の魅力発信のため、観光協会で「新磯観光マップ」を改訂した。自分たちの魅力を自分で確認してもらうために全戸配布した。他へ発信するにはまずは自分で確認することが必要。子育てについて、「あらいそ子育てマップ」を作成した。若い人の参加について、こちらで選別するのではなく、まずは受け入れて対等な関係を築いていくことが大切だと思う。(鈴木真司委員)
- 自治会について、防災が自治会の一番の切り口と考えている。楽しむことが必要だと思う、防災訓練とは別に「おもしろ防災まつり」を3年前から開催している。広報活動は、小中学生を通して親にチラシを配布している。自治会の会員・非会員は関係ない。協働を意識して、ジュニアリーダーに一つのブースを任せている。地域の企業とも協働している。また、地域と繋がるために「麻溝サポーターズ倶楽部」というカードを作成した。QRコードを読み込むと公式ラインアカウントに入り、事務局(まちづくりセンター)と繋がる仕組みになっている。自治会員、年齢、地域は問わない。イベントの準備、ポスター作り、ロゴなど、どのような形でも良いので参加していただきたい。設立して間もないが、いろいろな人と繋がりたいと考えている。(伊藤委員)
- 取組目標VIの協働のまちづくりについて、活動していることの周知が十分でない。学生、商店街の若い経営者たちも各地区で頑張っている。一人一人の市民が頑張っていることに光を当て、応援することが大切だと思う。ユニコムプラザさがみはらでは、学生たちが子ども食堂を開催していたが、コロナで中断してしまった。学生に活躍の場が復活すれば良いと思っている。文化について、一人一人の市民の文化度が上げていくことが大切で、公民館にサークルがあることも市民の文化の底力になる。地域の文化を大切にする姿勢が必要だと思う。公民館まつり、ユニコムプラザさがみはらのお祭りなど、絶やさない仕掛けを行政側をお願いしたい。商店街のイベントの助成金が少ないことに関しては、大野南地区では商店街から要望書を提出する。一つ一つピックアップしていくと見えてくるものがあると思う。一回皆で書き出してみてもどうか。(中村洋子委員)
- 大野中地区では、小学校3校、中学校2校。高校、大学なし。若者が集まる企業もない。自治会では会員の減少に伴い役員が頻回に回ってくる。班員が少なくなり、再編も考えられたが少ない人数で和気あいあいとやりたい。でも役員はやりたくないというのが一般会員の本音のようだ。若い世代の住民が少ないので加入促進が難しい。イベントに関して、9月に開催する「相模原よさこいRANBU!」は今年で第24回になるが、新しい風を吹かせることが必要だと思う。(民生委員も新任委員から新しい意見が出

てくれば良いと思う。(田村小次郎委員)

4 その他

- 3月18日に防災に関する会議(朝日田委員)について、いろいろな大学が協力して行っているので興味のある方は、是非、参加していただきたい。(井坂会長)
- 事務局より南区合同庁舎改修工事に係る基本計画策定について説明を行った。
南区合同庁舎改修工事に係る基本計画策定について、市民の意見をアンケート、オープンハウスで聴取し、また、庁内の関係機関と調整し、検討を重ねてきた。4月以降にパブリックコメントを募集する予定なので、その前に区民会議の委員には何らかの形で内容について説明や意見をいただきたいと考えている。

5 閉会

- 田村副会長より挨拶
防災について、中央区の防災倉庫を見学した。避難所が105箇所あるが、1人3食3日分で400人分を用意している。アルファ米ビスケットはあり、災害時には提携している会社から物資が届くことになっているとの説明だった。倉庫は大型の10トントラック3台がやっと止められる状況で本当に配送できるのか疑問に思った。今後、相模原市が特別市にならなくても、もっと充実した形で防災に備えていける、備蓄していけるようになると良い。1月12日にユニコムプラザさがみはらで開催した「【地域づくり大学市民企画講座】地域防災の最前線」では、参加者から一生懸命防災に取り組もうという姿勢が見て取れた。今後、南区区民が安全に安心して楽しく暮らしていければよいと思っている。今後もよろしくお願ひしたい(田村副会長)
- 次回の区民会議の予定
今回は、無作為抽出型区民討議会。開催日時は2月22日に日曜日。午後1時から午後4時半まで。講堂にて。参加をされる場合は、午後1時までにお越しいただきたい。通常の南区区民会議は、4月から5月の間で開催を予定している。

以 上

別紙

相模原市南区区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	田村 小次郎	大野中地区まちづくり会議		出席
2	中村 洋子	大野南地区まちづくり会議		出席
3	伊藤 信裕	麻溝地区まちづくり会議		出席
4	鈴木 真司	新磯地区まちづくり会議		出席
5	中村 明	相模台地区まちづくり会議		出席
6	浅田 聡	相武台地区まちづくり会議		出席
7	田村 久司	東林地区まちづくり会議	副会長	出席
8	鈴木 貴市	相模原南交通安全協会		欠席
9	藤野 互由	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
10	草薙 喜義	相模原市社会福祉法人経営者協議会		欠席
11	渋谷 典彦	相模原市22地区社会福祉協議会南区連絡会		出席
12	渡辺 美帆	子育て応援団With		欠席
13	大西 麻衣	相模原商工会議所		出席
14	姫野 大輔	相模原青年会議所		欠席
15	後藤 弘幸	相模原市民文化財団		出席
16	遠木 ナオ	チームユニバース運営委員会		出席
17	井坂 聡	相模女子大学人間社会学部	会長	出席
18	藤田 百合	女子美術大学芸術学部		欠席
19	朝日田 卓	北里大学 地域連携室		出席
20	小池 清史	公募委員		出席
21	嶋村 裕子	公募委員		欠席
22	松本 圭介	公益財団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム (市民・大学交流センター)		出席
23	隈本 光	南区若者参加プロジェクト実行委員会		欠席
24	西生 篤	ジェイコム湘南・神奈川 相模原・大和局		出席